

ふくしまから伝えたいこと、知らなければいけないこと。 ふくしま学（楽）会の成果と課題

早稲田大学環境総合研究センター・早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター 松岡俊二*、永井祐二**、李洸昊***、磯辺吉彦****

*早稲田大学アジア太平洋研究科、**早稲田大学環境総合研究センター、***地球・人間環境フォーラム、****NPO法人 広野わいわいプロジェクト

第1回ふくしま学（楽）会の概要（2018年1月28日、福島県広野町で開催）

福島県浜通り地域では、広野町などによる国際フォーラムを含む発表会や研究会などの交流の場が設定されてきたが、放射線リスクや廃炉などの専門的な話が中心のため、地域住民の理解促進にはつながりにくく、必ずしも本来の地域課題に関する交流の場としては機能してこなかったという地域社会の認識がある。このような観点から、既存の場とは異なる地域の多世代交流の「場」として、ふたば未来学園の高校生も含めた「第1回ふくしま学（楽）会」を開催した。本会は、被災地の調査研究や復興構想に関する提案づくりなどの多世代交流を実施してきた早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターの活動の一環として実施したものである。こうした多世代交流の「場」づくりの意義を明確にしながら、持続可能な復興への効果的な「場」づくりを目指すため、地域における「場」づくりのあり方について、研究者・住民の複数回の研究会および高校生との対話を通じて、地域の住民、団体、NPO、ふたば未来学園高等学校の生徒・教員らと議論を重ねた。ふくしま学（楽）会を通じて、今後の持続可能な福島再生を考える。

地域の多様なアクターによる多世代交流の「場」づくり

福島県浜通り地域は、まだ県内外への避難者が多く、一方でこの地域を中心に国や県が進めるインベションコースト構想は、地域内に外部からの作業員などの転入者を多く招いている。このような特殊な状況において、国や県は復興促進のために各地方自治体に補助金などによる支援を展開しているが、地域再生にとって最も重要である住民参加型まちづくりが非常に弱い。また、地域団体や行政が何かのまちづくり事業を推進しようとしても、若い世代の参加が少ないという問題もある。このような状況を改善するために、ふくしま学（楽）会は地元のふたば未来学園高校の高校生、NPO関係者、地域住民、行政、大学の研究者が集結し、世代や立場による「しがらみ」を越えた対話の場を設定している。

「場」づくりとマイクロマクロループ



地域の未来を創造するテーマの設定（第1回ふくしま学（楽）会）

ふたば未来学園高校の高校2年生・3年生が行っている未来探求研究を中心に行政、地域団体、大学研究者が事前に議論を行い、福島の持続可能な再生を考えるため、第1回ふくしま学（楽）会では以下のテーマを設定した。各テーマごとの報告・パネルディスカッション後、参加者を交えた対話を行った。

テーマ1 今、福島から世界へ伝えたいこと （ひと、もの、こととの交流）



テーマ2 今、福島について知りたいこと （原子力災害への対応など）



多様なアクター・世代からの報告

- ・高校生が案内する視察ツアー：福島の安全性を伝えたい（高校生）
- ・トリチウム問題を議論したい（高校生）
- ・風評被害の現状（地域住民）
- ・県外の方々との交流促進：視察ツアー、地域イベント（地域住民）
- ・市民参加型森林手入れの可能性：世代を超える森林体験促進（大学）
- ・アーカイブ施設構想および地域参加の可能性（行政）

世代を超えた意見交換

- ・事実を淡々と伝えていくことが重要である。
- ・『誰に伝えるのか』を意識することが出発点ではないのか。
- ・福島復興への住民参加が少ないため、住民が何を知りたいのか、何に困っているのかが見えづらくなっている。
- ・国や県に心理的に依存しすぎたのではないのかと反省している。
- ・『ふくしま学』を創設して、様々な人々を巻き込んでいきたい。

第2回ふくしま学（楽）会の概要（2018年8月4日、福島県広野町で開催）

第1回ふくしま学（楽）会を踏まえ、また地域での検討会を経て、早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンターでは4つのテーマを設定した。4つのテーマは、①まちづくりと住民参加、②農林水産業の再生と風評問題、③再生可能エネルギーとスマートタウン、④1F事故処理と汚染水問題である。4つのテーマについては地域と大学研究者の定常的交流を行い、その成果発表の場として第2回ふくしま学（楽）会を開催した。ふくしま学（楽）会を対話の場におけるCo-designとして位置づけ、参加者が単純な聞き手ではなく、対話するスタイルを取った。形式は通常の学会のように行ったが、内容は一般市民・生徒の参加に配慮し、地域での活動の報告や、将来に向けた構想段階のものを提案する発表もを行い、ビジョンを共有するようにした。

プログラム

10:00 開会

開会挨拶：松岡俊二（早稲田大学教授・センター長）
遠藤智（広野町長）、
御挨拶：松本幸英（双葉地方町村会長・楡葉町長）

10:10 テーマ1 今、福島で取り組んでいること（まちづくりと住民参加）

報告1：行政から（小松和真・広野町復興企画課など）
報告2：地域団体・大学から（南相馬市小高地区、窪田亜矢・東京大学特任教授）
報告3：高校生から（ふたば未来学園高校・原子力防災探究班）
会場ディスカッション（根本賢仁・広野わいわいPJ、松本昌弘・楡葉町役場）

11:20 テーマ2 今、福島のめぐみを活かすこと（農林水産業の再生と風評問題）

報告1：高校生から（ふたば未来学園高校・アグリ・ビジネス探究班）
報告2：地域団体から（吉田恵美子・NPO法人ザ・ピープル・理事長など）
報告3：行政・大学から（大手信人・京都大学教授）
会場ディスカッション（二瓶直登・東京大学准教授など）

12:30 昼食・休憩

13:30 テーマ3 今、福島から考える未来のこと（再生可能エネルギーとスマートタウン）

報告1：高校生から（ふたば未来学園高校・再生可能エネルギー探究班）
報告2：地域団体から（島村守彦・いわきおてんとSUN企業組合）
（小山田大和・（一社）エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議・専務理事）
報告3：行政・大学から（永井祐二・早稲田大学研究院准教授）
会場ディスカッション（太田宏・早稲田大学教授、鯨岡晋悟・広野町復興企画課）

14:40 テーマ4 今、福島について知りたいこと（1F事故処理と汚染水問題）

報告1：高校生から（ふたば未来学園高校・原子力防災探究班）
報告2：地域団体から（菅波香織・未来会議など）
報告3：行政・大学から（森口祐一・東京大学教授、双葉8町村など）
会場ディスカッション（南郷市兵・ふたば未来学園高校副校長など）

15:50 休憩

16:00 パネルディスカッション・懇親会

17:50 閉会：勝田正文（早稲田大学環境総合研究センター所長・早稲田大学教授）

18:00 終了